

みんなが生活しやすい未来へ

名古屋鉄道新聞

開かずの踏切!?

僕は加納駅の近くと茶所駅から岐南駅の間にある踏切を車で通った。茶所駅から岐南駅までの間にある踏切は踏切が開いたと思うとすぐに閉まり、また次の電車がやってきた。加納駅の近くは、電車が通過したと思ったらまた次の電車が来る。やっと開いたと思い渡るとすぐに閉まる。僕は電車が好きなんで見ていても楽しい。でも、もし急いでいるときだったらどうだろう。きつとイライラすると思う。

新聞で名鉄岐阜のビルが立て替えられ、線路も高架になることを知った。僕が通った踏切は、一日のうち最も踏切による遮断時間が長い時間帯が一時間で四十分以上になるようだ。これでは通勤や急いでいるときには不便だ。また事故も増えるのではないかと思った。高架化について調べると、「踏切渋滞・事故の解消」「車両や歩行者の流れの円滑化」「騒音・振動の改善」「防災力の向上」「高架下空間の有効活用」の五つの目的と効果が分かった。

名鉄高架化事業を行うことで、誰もが安心・安全に生活することができる。僕は、ただ電車が走ればいいのではなく、電車を利用する人も、周辺に住んでいる人も、誰もが生活しやすいことが大切なんだと分かった。



130周年記念

岐阜市立
徹明さくら小学校
5年 佐藤良祐
令和6年
8月28日

「ミュースカイ」の色が!

僕の好きな「ミュースカイ」がいつもと違うことに驚いた。以前僕が乗ったミュースカイは白色で青色の線が入っているデザインだった。しかし今回僕が見たミュースカイは色が反転していた。青色に白色の線。いつもとは違うミュースカイは「ブルーミュースカイ」と呼ばれていた。名鉄130周年記念事業の一つで、六月二十九日から運行されている。

ミュースカイは、二〇〇八年から運行されている。名鉄名古屋駅から中部国際空港駅を最速二十八分で結んでいる。「ブルーミュースカイ」は限定列車で当日何時に走るかはホームページで検索できる。ほくも一度乗ってみたい。



名鉄岐阜からの旅

各務原線に乗って犬山まで

僕は夏休みに、名鉄岐阜から犬山まで行くことにした。名鉄岐阜駅はつくりが変わっていて、名古屋・羽島方面と犬山方面ではホームのある建物が違う。以前ミュースカイに乗ったときは、今回のホームとは違ったので、興味をひかれた。実際に乗ってみると、名鉄岐阜駅から犬山駅までで十七の駅が無人駅だった。細畑駅は高架になっていたが、他の駅は家と家などの建物の間に駅があり、そこで生活する人にとって大切な路線なのだと考えた。また、市民公園前駅と各務原市役所前駅の間は歩いて行けるほどすぐに着いた。不思議に思ったが、みんながよく使う場所だからこそ駅があるのだと思った。



百三十周年の歴史

記念事業

「名鉄」は令和六年、六月二十五日に百三十周年を迎えた。明治二十七年六月二十五日に「愛知馬車鉄道株式会社」としてスタートした。その後、明治二十九年に「名古屋電気鉄道株式会社」に、大正十年に「名古屋鉄道株式会社」に、昭和五十四年に「名岐鉄道株式会社」に、昭和五十四年に「名岐鉄道株式会社」として合併し現在の「名古屋鉄道株式会社」になった。

今年は記念事業とし「あなたの夢実現Project」や中学生以上を対象とした「運転体験」などが行われている。またファミリーマートでは「うま〜い愛知大集合」として記念ロゴが書かれたパッケージに地元の食材を使ったコラボ商品が発売された。他にも名鉄公認「トレーディングカード」や百三十周年記念商品などが発売された。ほくは百三十年の間、みんなの生活を守り「名鉄」の愛称で親しまれてきたことに歴史を感じた。これからも、誰もが安心・安全に利用できる「名鉄」であるために、きつとさらに歴史をつくっていくのだろうと思った。

編集後記

名古屋鉄道が百三十周年を迎えたことで、今年はいろいろな事業があり、とても興味深い。その中でも、やはり「ブルーミュースカイ」はとても魅力的だ。きつと僕と同じように乗って見たいと思う人も多いだろう。これから名鉄はみんなの生活をより豊かにしていくのではないだろうか。高架化や記念事業だけでなく、未来にむけてより名鉄が発展してくれると嬉しい。